

我が国の国際競争力(議論の叩き台(案))

国際競争力とは？

- ①日本に地盤を持つ企業の競争力
- ②国自体の競争力(場としての魅力)

論点

- ①すりあわせ型産業(自動車、精密機器等)、素材・部品・製造装置の日本企業シェアは比較的高い傾向。
- ②市場規模の大きいモジュール化製品(パソコン、携帯電話等)、サイエンス型産業(医薬品、ソフトウェア等)の日本企業シェアは比較的低い傾向。
- ③IT分野(マイクロソフト、グーグル等)以外にも機動性に優れるベンチャー企業が急激にシェアを拡大し、世界的企業となる傾向(太陽電池、液晶テレビ等)。
- ④国際的企業再編によるグローバル巨大企業の誕生。
- ⑤製品(特にモジュール化製品)の価値のコアが、
→素材・部品・製造装置における技術イノベーション
→アイデア・コンセプト、ソフトウェア、(特にグローバルな)技術経営力
などに移行しつつある製品の増加。
- ⑥場としての魅力に課題(社会システムの硬直性、非英語圏等)。

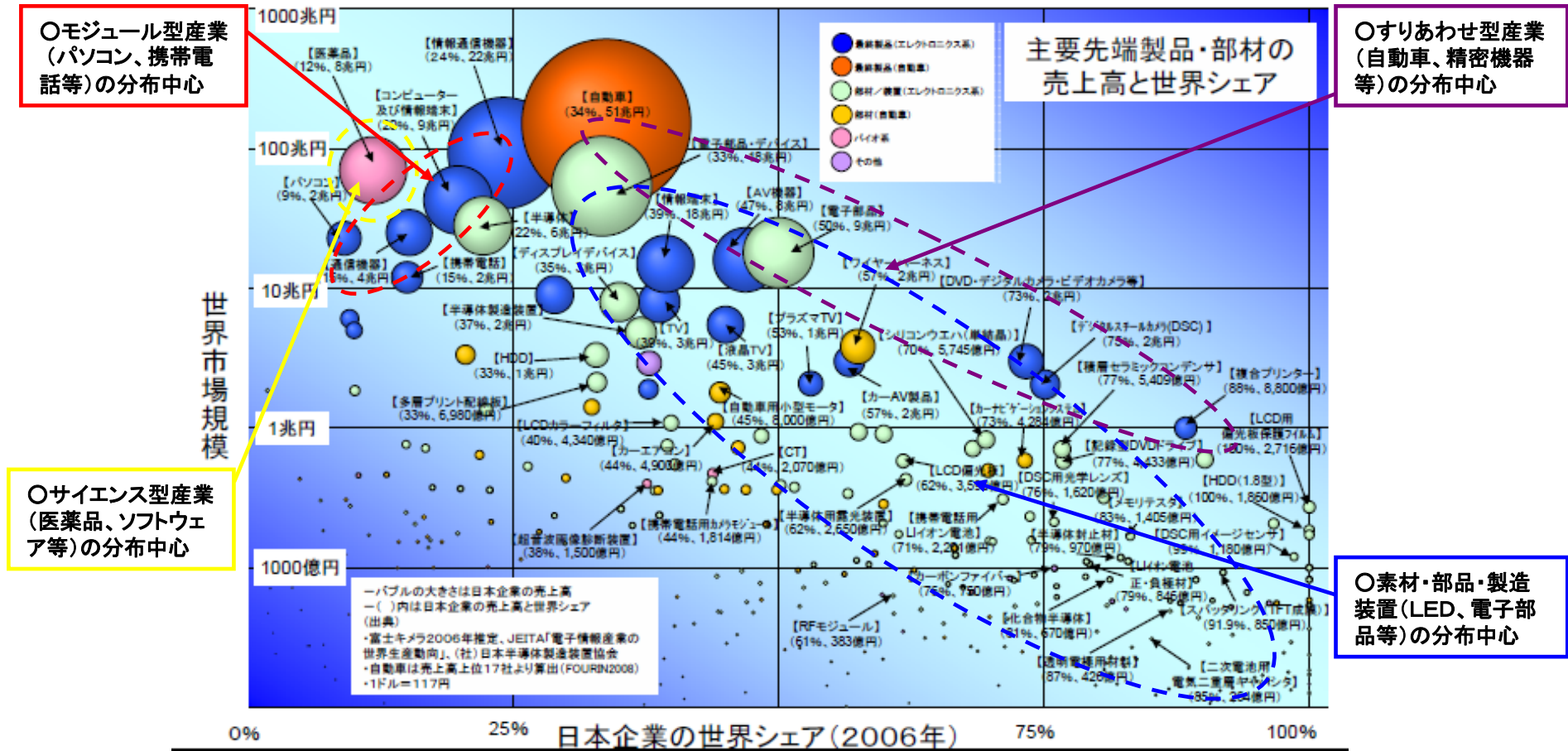
等

想定される方向性

- ①巨大システム産業(原子力、プラント等)等を残して、モジュール化は今後も進む。
- ②新興国における中産階級の増加により、高品位・こだわりの製品・サービスの需要が増加する。
- ③ベンチャー企業による大企業へのさらなる挑戦、グローバル巨大企業による市場寡占化が進む。
- ④アイデア・コンセプト、技術経営力の重要性が高まる。
- ⑤世界的なイノベーション拠点の地位や人材獲得等を巡る競争が激化する。
- ⑥製造業(特に素材・部品分野)を支えてきた産業集積、人材基盤の劣化が進む。
- ⑦少子高齢化により国内需要が減少する。

等

我が国主要産業の国際競争ポジション



産業構造審議会 産業技術分科会 第23回研究開発小委員会 資料5(資料:富士キメラ2006年推計、JEITA「電子情報産業の世界生産動向」、(社)日本半導体製造装置協会資料から経済産業省作成)に加筆